

| | | | | |
|----------------|--|-----------|-------------------------|---------|
| 科目名 | ミクロ経済学Ⅱ | 科目分類 | ■専門科目群 □総合科目群 | |
| | | | 経済学科 | □必修 ■選択 |
| | | | 学科 | □必修 □選択 |
| 英文表記 | Microeconomics Ⅱ | 開講年次 | □1年 ■2年 □3年 □4年 | |
| | | 開講期間 | ■前期 □後期 □通年 □集中 | |
| ふりがな | たむら ひであき | 実務家教員担当科目 | 修得単位 | 2単位 |
| 担当者名 | 田村 英朗 | 実施方法 | ■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用 | |
| 授業のテーマ | 一年後期で学んだミクロ経済学を、実践的に応用する能力を養成することを目的とする。 | | | |
| 到達目標 | この講義受講により、単に教科書的にミクロ経済学の理論が説明できるだけではなく、実際に日本経済新聞の記事の解釈と理解に応用できるようになる。 | | | |
| 授業概要 | ミクロ経済学Ⅰと同じテキストで学ぶ。このテキストは、例題が豊富で、これを丁寧に読めば、応用能力が身に付きます。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | 関連数学の復習 | | | |
| 第2回 | 労働供給の無差別曲線分析 | | | |
| 第3回 | 効率性・公平性と厚生経済学の基本定理 | | | |
| 第4回 | 完全競争と独占市場 | | | |
| 第5回 | 独占的競争と製品差別化 | | | |
| 第6回 | 国際貿易(1) 比較優位の理論 | | | |
| 第7回 | 国際貿易(2) 関税保護の効果 | | | |
| 第8回 | 不確実性・リスク | | | |
| 第9回 | 市場の失敗(1) 情報の不完全性 | | | |
| 第10回 | 市場の失敗(2) 外部性 | | | |
| 第11回 | 市場の失敗(3) 公共財 | | | |
| 第12回 | 市場の失敗(4) 費用逡減産業 | | | |
| 第13回 | 税・社会保険・所得分配 | | | |
| 第14回 | 情報財の経済学、ネットワーク外部性 | | | |
| 第15回 | 復習 | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | |
| 授業時間外の学習 | 1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度) | | | |
| 履修条件 受講のルール | 経済学入門、ミクロ経済学Ⅰを履修していることを前提として講義を進めます。 テキストに沿って講義を進めるので、必ず購入してください。なお、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。 ※ミクロ経済学Ⅰから担当者が変わるため、ミクロ経済学Ⅰの習熟度によっては本シラバスの内容を変更して対応する可能性もありますので留意してください。 | | | |
| テキスト | ポール・クルーグマン「ミクロ経済学」(ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱともに同じテキストです) | | | |
| 参考文献・資料 | グレゴリー・マンキュー「ミクロ経済学」：外国テキストの方が優れ、話題も豊富で、読んで楽しいようにできています。 | | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト・レポート40%、定期試験60%をおよその目安として、総合的に評価します。 ・出席回数規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 | | | |

| | |
|-------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。 |
| オフィスアワー | 担当科目がある曜日の第4時限の時間帯 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。（毎週金曜日を除きます） |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 実務経験及び実務を活かした授業内容 | |
| 学生へのメッセージ | 経済学を学ぶことの実社会における利益は、合理的に思考しながら広い視野の下で考え、行動することの価値が学べることで感じています。本講義の経済学で学んだ思考法と知識を素養として、実社会で活躍する能力を身につけることを目差して頑張ってください。 |